

(承前) 政府スポンサーによる国内テロが公立学校を狙う

【訳者注】前の記事を、もう少し延長して訳した。詳しく聞けば聞くほど、手の施しようのない米国家犯罪の病巣が見えてくる。特に 3 頁の写真をご覧いただきたい。これは報道写真として、ベトナム戦争時の、あの有名な、素っ裸の少女を真ん中にして、泣きながら米兵から逃げる子供たちの写真に、匹敵するのではなからうか？ これは、ラスベガス銃撃事件を用いて、犯罪国家アメリカの構造をずばりと描いている。右端の FBI エージェントは、事件のアップデート情報を発表するラスベガス保安官を睨んで、「下手なことを言ったら、ただでは済まないぞ」という表情をしている。保安官は無然として、「この通り読めばいいんでしょ？」という顔をしている。(左端はエージェントの仲間だろう。) エージェントは、この段階での彼の役を演じているだけで、彼が悪いわけではない。万一、ここで命令に背けば、身に危険が及ぶ。保安官は、この連鎖に運悪く巻き込まれただけで、国家に背く気もないが、協力する気もない。が、結果的には共犯者である。どちらも気の毒な被害者であり、共犯者でもある。これを聞く報道陣も、真相はわかっていながら聞いた通りを報道する…。我々の生きている世界の、愚かしくも悲しい現実のひとつコマである。

この時の NHK ニュースを見た人があるだろうか？ 銃撃が始まったとき、主役のミュージシャンが舞台上にいたところまで映像は流れた。その直後、彼は客に向かって一言の挨拶も警告もなく、ギターを抱えて走り去った。その部分は、間違いなく故意に省かれていた。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/171009.pdf>

SOTN (State of the Nation)

February 18, 20184

9/11 ニセ旗テロ攻撃——古典的“グラディオ作戦”計画——以来、アメリカでは、国家スポンサーによる大規模死傷事件が劇的に上昇している。これらの多くは、大量虐殺と爆撃の形をとっている。しかし、中でも特に増えたのは、一匹ガンマンによる学校虐殺事件である。

ラスベガス虐殺は、このパターンから明らかに外れるが、あの 10 月 1 日の収穫音楽祭銃撃で起きた騒ぎもまた、典型的なグラディオ作戦 C の心理戦だった。まさにそれが、主流メディアの新しい報道から、あれほど急速に、あの事件が消えた理由である。そこには、非常に手の込んだ、高度に組織された、CIA の指令と FBI の保護による、ブラック作戦であることを示す不可解な要素が含まれていた。

「30名のFBIエージェントが、ラスベガス銃撃事件の1~2日前に、マンダレー・ベイ・ホテルに、チェックインしていた？」 <http://stateofthenation2012.com/?p=88171>

これらのヤラセ大量銃撃事件が学校で行われるとき、明らかに、そこには高度に計算されたアジェンダがある。先日のフロリダ州の高校大量銃撃事件は、奔流のような主流メディアの扱いを受けただけでなく（時に、“モッキングバード作戦”プロパガンダと呼ばれる）、すべては、アメリカ人民から銃所持権を奪い、究極的には、第2修正条項を撤回することに狙いがある。フロリダ州パークランドの銃撃事件もまた、ますます悪化するFISAゲート・スキヤンダルから、国家的話題を変えさせることを狙ったもので、その通りになった。下の記事は、そのすべてを物語っている。 <http://themillenniumreport.com/2018/02/how-the-c-i-a-completely-took-over-the-mainstream-media-with-operation-mockingbird/>

「バレンタインデー虐殺：フロリダ州高校の大量虐殺は、なぜニセ旗ブラック作戦なのか？」 <http://stateofthenation2012.com/?p=94416>

大量銃撃事件は、グラディオ作戦Cによってアメリカに持ち込まれた

こうした決して終わることのない学校虐殺を、統制し実行している、組織的な構造を正確に理解していなければならない。グラディオ作戦Cとは、これらのテロ・ブラック作戦を指導する包括的な戦略プランに与えられた、コードネームである。

キーポイント：国内で育てられたテロリストが、グラディオ作戦Cの命令の下で、国内テロを行うように訓練されているのは、第一に、軍の士官は命令に背くことができないからである。もし背いたら、彼らは職を失うであろう。彼らはまた起訴されやすい立場にあり、それは常に、“国家安全保障”というペテンによる、秘密に隠れて行われる。これは、明らかに不法な、**ケムトレール散布計画**の場合も同じで、これもやはり、米空軍に指令された大量軍事作戦であり、Operation Indigo Skyfold と呼ばれている。

<http://stateofthenation2012.com/?p=10890>

頂上の意思決定プロセスは、米軍とNATOの指導層内部の、中央プランナーによって通告され、この者たちは、第二次大戦以来、グラディオ作戦のヨーロッパ支配圏を監視してきた。グラディオ作戦は、依然として、今も盛んに活動しており、1970代から1980年代初期にかけてRed BrigadesやBaader-Meinhof Gang（ともに左翼テロリスト・グループ）が、ヨーロッパにテロを仕掛けていたころと変わっていない。最近のヨーロッパ大陸における数々のテロ攻撃も、中東を通じて行われているアルカーイダ、ISIS、ダーイシュのテロ大量虐殺

と同じく、これとの契約なのである。

ここ合衆国においては、すべての必要な政府の組織が、大量虐殺の計画と実行に巻き込まれており、その一つひとつが落ち度のない実行を要求されている。米軍、FBI、DIA、DHS、ATF、そして地方法執行機関のそれぞれが、演ずべき役割をもっている。しかし、彼らは厳密に、自分の責任の範囲しか知らされておらず、高度なコンパートメント方式によっている。これによって、個人でも団体でも、誰一人、これら極端に隠ぺいされたブラック作戦を、知り過ぎたり、危険にさらしたりすることがないようにしている。

成功を保証し、大量虐殺の真相が漏れないようにするために、FBI（連邦捜査局）が常に、最も肝心な役割を演ずるように選ばれる。国家の中心的な法執行機関として、FBIは、犯罪現場をコントロールするように、そして同時に、主流メディアに与えられる物語をコントロールするように、要求されている。彼らはこれを緊急報道の現場においても、背後からも、両面から実施している。FBIの特別エージェントが、ラスベガス銃撃心理作戦の後で、ラスベガスの保安官が報道陣にブリーフィングしているのを、厳しく見張っている光景を、誰が忘れるだろうか？



FBI 特別エージェント Aaron Rouse が、ラスベガス保安官 Joseph Lombardo を睨みつけている

FBI=アメリカのゲシュタポ

FBI が、石のように冷たい秘密警察国家の機関であることを示す事件の数は、あまりにも多

くて、例を上げることもできない。とはいえ、彼らが常に、革長靴を履き、重武装をした、ギャングの一団として機能してきたことは、今、明らかである。ここに、短いがより包括的な、FBI のアメリカ人民に対する、最も恐ろしい犯罪と深遠な裏切り行為を示す、さらに別のリストを示そう。これらの制度的な犯罪のいくつかは、もう一つのならず者部局、BATFE（アルコール、たばこ、火器、爆発物取り締まり局）との緊密な連携によって犯されている。

- ・ 2001 9・11 テロ攻撃とその隠ぺい
- ・ 1995 オクラホマ市庁舎爆撃
- ・ 1993 世界貿易センター爆撃
- ・ 2017 ラスベガス大量銃撃（犯罪と隠ぺい）
- ・ 1993 ウェイコ（Waco）の包囲と焼夷弾攻撃
- ・ 2015 テキサス州 Waco の Twin Peaks 銃撃戦
- ・ 1992 Randy Weaver の妻と子供の Ruby Ridge 殺人
- ・ 2016 愛国者 LaVoy Finicum のオレゴン殺人



多くのバイカーは、どうやって ATF (=BATFE) が、FBI エージェントや郡保安官と同じほど敏速に、現場の Twin Peaks に到着したのか、不思議だと言った。中には、現実には、連邦警察が、隠れて自分から射撃をしたのだと、確信している人たちもいる

ここから明らかと思われることは、FBI のような東ドイツ式の国家警察でなければ、このように広大な範囲の犯罪活動に、共犯として、緊密な関係をもつことはできないということである。

政府の演ずる保護業者としての FBI

どうすることもできない事実として、FBI は、本来の設立趣旨通りに、本当にアメリカの秘

密国家警察として機能している。トランプ大統領以来、明らかになってきた多くのショッキングな事実を考えるなら、FBIが、法執行とは全く何の関係もない、ならず者連邦局だということは明らかである。FBIは明らかに、必要な場合にはいつでも腕力を供給し、隠ぺいを買って出る、保護サービス業者のようなものである。

FBIが援助し/または隠ぺいする無数の犯罪騒ぎは、現実には、老練の犯罪政治家、悪徳企業家、国際的銀行ギャング団、それにさまざまな他の、高級ギャングや重罪犯たちによって実行される。これらVIPの法破りたちのリストは、アメリカの上流社会の人名録のように読める。

その例として、クリントン犯罪一家以上のものはない。現在、社会的に確固とした証拠が行き渡っており、それは現行のクリントン犯罪の波に、FBIが共犯としてかかわっていることを、証明している。この犯罪の波は、最近の大量のクリントン・スキャンダルより、ずっと前に始まったもので、いろんな呼び方で知られている——ロシアゲート、FISAゲート、書類ゲート、情報局ゲート、ウラニウムゲート、盗聴ゲート、Eメールゲート、ウィーナーゲート、ISISゲート、ベンガジゲート、等々。多くの人びとは、FISAゲートという、多数の制度的乱用だけでも、FBIが永久に閉鎖されるべき理由になると言っている。

「“FISAメモ”犯罪は、FBIの即刻の解体を要求する」

<http://stateofthenation2012.com/?p=93931>

クリントン夫妻以前には、もちろん、ブッシュ犯罪シンジケートが存在した。アーカンソーのメナ空港で行われた（クリントンがAR知事の時）ブッシュのコカイン密輸作戦と、ジョージ・W・H・ブッシュ大統領下での“貯蓄とローン”スキャンダルは、アメリカ政府の最高階級に深く食い込んだ犯罪行為の、たった2つの例にすぎない。

——以下略